

## 創業1929年の桐箱メーカー3代目が新たな挑戦 手仕事と福祉で持続可能なモノづくりと地域に必要なとされる桐箱へ

記者発表日時 令和 8年 4月30日（木） 14:00～

現在古賀市で桐箱の製造を行っており、創業1929年の増田桐箱店の3代目の代表取締役、私藤井はこのたび一般社団法人ハコタスを立ち上げ多機能型就労支援事業所の運営を行います。

ハコタスという名はハコに付加価値を足すが由来で。これまでの桐箱作りの増田桐箱店に梱包や2次加工を行い、より付加価値の高いモノづくりを行っていきます。  
私が高齢の代表になって桐箱の仕事をしながら進めたことが「地域に必要な仕事」  
→桐箱というニッチだからこそ地域のご理解あってこそものづくりは続けられること  
「できたもので評価されるものづくり」  
→誰が作るかではなく、今お客様が必要としているものづくりがちゃんとその時代でアップデートされているか  
この2つを意識しつつ、たどり着いたのが福祉でした。  
また職人率という独自の言語化もあって「桐箱職人がもっと桐箱に集中できる環境整備」  
そして「その桐箱に紐や色など付加価値をつけてくれる作業」  
今回のハコタスは我々増田桐箱店の作る桐箱に付加価値をつけられる、そんな役割と考えています。

### ■増田桐箱店とハコタスの関係図



(株)増田桐箱店(古賀市)  
桐箱の量産技術



×



ハコタス(古賀市)  
柿渋で米びつに付加価値



年間で10,000個販売して  
米びつに柿渋加工輸出拡大へ  
アメリカ向け数量が10倍へ

連携  
×



これまで増田桐箱店では福岡県内3箇所と関東圏1箇所の計4箇所の福祉事業所に作業の依頼や施設外就労などを行ってきました。かれこれ5年ほど福祉と一緒にものづくりする中でモノづくりの新たな可能性とともっと桐箱に付加価値を出せると考えました。上記画像の黒い米びつは、米びつの製造は増田桐箱店で行い、表面の柿渋加工は半分以上が福祉事業所で作業してもらっています。その黒い米びつは海外で人気になりヒット商品の米びつがさらに売れるようになっております。その経験や可能性を感じ、新たに一般社団法人ハコタスを立ち上げてこの春から福祉事業所を自ら運営しもっとものづくりの可能性を広げていこうと考えております。

■企業概要

【株式会社増田桐箱店】（古賀市 福岡県地域産業資源：桐箱・桐製品）

1929年創業。桐箱一筋約100年。博多織・博多人形・陶器用の桐箱から始まり、人間国宝の作品や国立博物館向けの桐箱、食品・ギフト用の桐箱まで幅広く桐箱を製造。伝統工芸品向けの桐箱製造ではトップシェアを誇り、人間国宝用の桐箱40%を製造しています。

近年は「日常に桐のある生活」をテーマに、現代のライフスタイルに溶け込む桐製の米びつや、デザイナーとコラボした異素材を組み合わせた商品も積極展開しており、注目を集めています。

（受賞歴）福岡デザインアワード優秀賞（2014年）、経済産業省 頑張る中小企業・小規模事業者300社（2015年）、JIDAデザインミュージアムセレクション（2016年）、福岡県ものづくりモノ語り100（2017年）、経済産業省 日本ものづくり大賞 九州経済産業局長賞（2018年）

【一般社団法人ハコタス】（古賀市 A型B型多機能就労支援福祉事業所）

2026年4月事業開始。モノづくりを約100年続ける増田桐箱店の3代目で今社団の代表理事の藤井と障害福祉サービスを20年以上やってきた常任理事の上田が力を合わせ商業と福祉を連携していきます。

■本件に対するお問い合わせ

株式会社増田桐箱店 担当：藤井

電話 092-942-3061

一般社団法人ハコタス 担当：藤井

電話 092-942-3061



桐箱作りを支える利用者さんの声

日本全国から注文が入っていることが作業を通して印象に残りました。作業はあまり苦勞することなくできてよかったです。



忍耐力と問題解決力が鍛えられ、「伝統産業に携わり、価値を高めることに貢献できている」というやりがいも感じています。

最初は戸惑いましたが、慣れてくれば要点を掴み、スムーズに作業できています。



細かい作業が苦手でしたが、優しい判定で合格をもらえ、「自分にもできているんだ」と安心できました。

